

コロケーション基礎-講義

1 導入

この講義の核心は、「意味が合っている」と「英語として自然である」とは別だ、という点である。Collocation は語彙力の飾りではない。英訳が 60 点台で止まりやすい主因の 1 つであり、意味は通るのに不自然だという減点を大量に生む。

2 中心課題

なぜ reviewed good のような英語は文法的に見えても不自然であり、has good reviews のほうが自然なのか。

3 用語

- コロケーション: 語と語の自然な結び付き
- 共起: 実際の英語で、ある語がどの語と一緒に現れやすいかという事実
- 自然化リライト: 意味を保ったまま、英語として普通の表現へ寄せる作業

4 方針

Collocation を扱うときは、次の順序で考える。

1. 言いたい意味を固定する
2. 主役になる名詞か動詞を 1 つ決める
3. その語が普通どんな語と結び付くかを辞書・コーパスで確認する
4. 意味が近い候補の中から、場面に合う結合を選ぶ

5 直感的な説明

日本語では「評判がよい」「冗談として受け取る」「担当者に連絡する」といった意味が頭に先にあり、その後で英単語を並べたいくなる。しかし、英語では個々の単語よりも、「どの組み合わせが普通か」が先に決まっていることが多い。

Incorrect

He received it rude.

[COL] 意味は推測できるが、英語としては普通に言わない。

Correct

He took it as rude.

[COL] take it as rude の型に乗せると自然になる。

Correct

Some people would find it rude.

[REG] 説明や一般論ではこちらのほうが滑らかである。

Collocation の学習とは、単語を孤立して暗記することではなく、「その語はふつうどこに置かれるか」を知ることである。

6 厳密な説明

6.1 1. Collocation は文法ではなく使用の慣習である

文法的に作れる文でも、母語話者が通常選ばない結合は不自然に聞こえる。したがって、Collocation の判定では「構文が成立するか」だけでは不十分である。

6.2 2. 代表的な型

型	例	確認すべき点
動詞 + 名詞	have good reviews	その動詞はその名詞を普通目的語に取るか
形容詞 + 名詞	heavy rain	意味が近い形容詞でも言い換えられるとは限らない
動詞 + 前置詞	depend on	PRP と重なるが、語法として固まっていることが多い
定型句	to give you the conclusion first	文体ごとに頻出表現がある

6.3 3. 検証の方法

- 連語辞典で候補を引く
 - コーパスで実例を見る
 - 似た候補を比較して、どちらが多くどの文体で出るかを確認する
- この手順により、「辞書に載っているから正しい」ではなく、「実際に使われるから自然」という視点へ移る。

7 最小の具体例

7.1 例 1: 評判

Incorrect

The movie is reviewed good.

Display

- a. The movie has good reviews.
- b. The movie is well reviewed.
- c. The movie is reviewed good.

a と b は自然であるが、c は不自然である。c が崩れるのは、review と good の結合ではなく、受動態 + 形容詞を雑に合成してしまっているからである。

7.2 例 2: 質問がある

Incorrect

Please notice the person in charge the doubt.

Correct

Please contact the person in charge if you have any questions.

日本語の「疑問があれば担当者に連絡する」は、直訳すると崩れやすい。英語では have any questions と contact the person in charge の 2 塊 で考えると安定する。

8 別の見方

8.1 誤文訂正として見る見方

Collocation は「正解を暗記する分野」ではなく、「不自然さの種類を見抜く分野」として見ることもできる。文法が合っても不自然なら COL と判定する、という観点である。

8.2 Register と接続する見方

同じ意味でも、会話・事務・学術で選ばれる Collocation は変わる。したがって、Collocation は単独で学ぶのではなく、REG と連動して見ると精度が上がる。

8.3 学術文体へ広げる見方

Ch3 の基礎で扱うのは、日常的・事務的な Collocation が中心である。しかし Ch8 では、説明文や学術文体で頻出する focus on、play a role in、have implications for のような結合が主役になる。ここでは「意味が近いから置換できる」とは限らず、文体ごとの定着がさらに強い。

→ 定石集 学術コロケーション定石 [reference](#) [english](#) [collocations](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/collocations/学術コロケーション定石-定石集/>

→ [講義](#) [定型句と語彙バンドル](#) [lecture](#) [english](#) [collocation](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/定型句と語彙バンドル-講義/>

9 見分け方

- 単語ごとの意味は合っているのに不自然だと感じる場合は COL を疑う
- 辞書を引いても候補が多すぎる場合は、主役の名詞か動詞を決めて Collocation を確認する
- 前置詞が絡むときは、PRP と COL のどちらが主因かを切り分ける

10 どこまで成り立つか

Collocation は頻度と慣習に依存するため、唯一の正解がない場合もある。また、創作的な表現や強調では、あえて通常の Collocation を外すこともある。ただし、学習段階では、まず標準的な結合を安定して選べることを優先する。

11 最終形

Display

Collocation の基本手順

意味を固定する → 主役の語を決める → 自然な結合を辞書・コーパスで確認する → 文体に合う形を選ぶ

12 一言でいうと

Collocation の学習とは、単語を増やすことではなく、「その語は普通どの隣に現れるか」を覚えることである。

13 関連リンク

→ [講義](#) [英語学習の運用設計](#) [lecture](#) [english](#) [overview](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/英語学習の運用設計-講義/>

→ [定石集](#) [動詞コロケーション定石](#) [reference](#) [english](#) [collocations](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/collocations/動詞コロケーション定石-定石集/>

→ [定石集](#) [学術コロケーション定石](#) [reference](#) [english](#) [collocations](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/collocations/学術コロケーション定石-定石集/>

→ [定石集](#) [誤りタグ体系](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>

→ [問題演習](#) **自己採点と再翻訳** [exercise](#) [english](#) [translation](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/translation/自己採点と再翻訳-問題演習/>